



杉山たかのり ニュース

市議会内 日本共産党市会議員団控室 Tel.35-3368

自宅 西宮市津門仁辺町5-21 Tel・Fax35-1682

団ホームページ <http://nishinomiya.jcp-gi.in.net/>

ブログ・ツイッター [杉山たかのり](#) フェイスブック [杉山孝教](#) で検索を

3月市議会 杉山たかのりの一般質問 その2

中小企業振興条例、公契約条例の制定を

2月22日から始まった西宮市議会3月定例会。杉山たかのり議員は、3月3日一般質問を行いました。前号では国道43号線の横断歩道橋にエレベーターの設置を求める質問を紹介しましたが、今回は2問の概要を紹介します。

県中企業振興条例 「実行性ある」「市も振興の先頭に立つ」



杉山たかのり議員は、アベノミクスが大企業には大儲けを確保しながら、賃金ダウン、中小企業への増税など景気を悪化させていることを批判し、地域経済の活性化は市の役割だとして中小企業振興条例の制定を求めました。

昨年兵庫県が議員提案で中小企業振興条例を制定、県レベルでは39道府県にのぼっています。杉山議員は、この間制定されている条例が理念条例にとどまらず、中小企業振興基本法にもとづき5人程度の小規模企業を位置づけていること、企業を外から呼び込むのではなく、地域内経済循環を創出する内発型の発展を志向するものになっていることなど、より具体的な施策を述べたものになっていることを紹介しまし、振興条例の必要性を明らかにしました。

市当局は兵庫県条例を「県の責務や市町の役割、支援体制等の強化、雇用環境の整備、販路の拡大支援、商店街の活性化など、展開する施策の具体的な方向性を示しており、地域の経済と雇用を支える中小企業、小規模企業の振興を実行あるものとしていく条例が制定されたと考えている」と評価しました。市長は「現在、産業振興審議会において、条例による効果や必要性などについて議論を始めているが、今後、審議会の議論を踏まえ、中小企業振興条例について検討していく。」と答弁しました。杉山

市当局は兵庫県条例を「県の責務や市町の役割、支援体制等の強化、雇用環境の整備、販路の拡大支援、商店街の活性化など、展開する施策の具体的な方向性を示しており、地域の経済と雇用を支える中小企業、小規模企業の振興を実行あるものとしていく条例が制定されたと考えている」と評価しました。市長は「現在、産業振興審議会において、条例による効果や必要性などについて議論を始めているが、今後、審議会の議論を踏まえ、中小企業振興条例について検討していく。」と答弁しました。杉山

議員は「いつをめどとするのか」と再度質問すると、「審議会は来年度」との答弁。杉山議員は早期に制定するよう再度強く求めました。

公契約条例、県下で変化 三木、加東、加西で制定

次に、杉山議員は公契約条例を取り上げました。近年行革による自治体の経費削減は公共サービスに携わる労働者の労働条件の悪化につながり、いわゆる「官製ワーキングプア」を作り出しています。それを是正するために公契約条例が求められています。西宮市はプロジェクトチームを設置し検討したものの、条例制定によらず業務の中で労働条件を確保することとしています。ところが、2014年度に三木市が関西ではじめて条例制定を行い、兵庫県下では加東市、加西市が続いて制定、尼崎市でも動きがあり、情勢が変わってきました。

杉山議員は、県下の動きについての見解を求めるとともに、現在産業環境局労政課が担当しているが、契約業務を所管する総務局契約課が担当することを求めました。

市当局は、「平成26年7月には、都道府県では初めて奈良県で公契約条例が制定された。兵庫県では、三木市や加東市、加西市の3市で、公契約条例が制定され運用されており、尼崎市でも条例制定に向けての動きがある。県下の自治体の状況も変わってきていることから、情報収集に努め、各市の条例の効果等について調査、検証していく。」としながらも、「現時点では、公契約条例についてはその制定によらず、国の法整備等を最優先すべきと考えており、業務を遂行する中で労働者の賃金や労働条件の確保に取り組む方針に変わりないことから、労働政策を所管する労政課が引き続き所管していく。」と、従来の姿勢を変えていません。

杉山議員は、駅前駐輪場を管理する指定管理者が、業務に従事する職員の顔が変わらないのに、指定管理者が変わるたびに労働条件が引き下げられ、前管理者時は、一人毎の労働時間を短縮して「社保はがし」をしたものを決定してきたことをあげ、条例化しなければ同じようなことを引き起こすと、厳しく市の姿勢を正しました。

学校のトイレ 洋式化推進も臭いトイレは放置？

日本共産党市議団は、この間学校のトイレの洋式化を求めてきました。これは自宅では洋式トイレが増え、温水洗浄便座も普及しているにもかかわらず、学校では和式トイレが多く、子どもたち使用を我慢するなど健康面に影響しかねないからです。新年度は約1億円規模の工事費が予算化、小学校は早期に洋式トイレを50%に引き上げると市議団の一般質問に答弁しています。ところが、参観日の保護者から今津中学のトイレが異常に臭いと苦情がでていることを取り上げると「全部臭い」と教育委員会。水を常に流していないと臭気が管を昇ってくる湿式トイレを、乾式に改修する必要があります。予算がとれずに、事実上放置しているのでは。

